明るい社会を目指して

日野小学校五年　伊東咲哉　いとうさすけ

「明るい社会」と聞くと、みなさんはどんな社会を思いうかべるでしょうか？ぼくは、「だれとでもたよりたよられ助け合い」というひのっこせんげんの中にある言葉を思いうかべました。自分が困った時には助けてほしいし、だれかが困った時にはいつでもたよってほしいし、そんな時には自然と手を差し伸べ合い、助け合える社会だったらいいなと思います。みんな、人は一人で生きていくのではないでしょうか。

ぼくの弟は、ダウンしょうという個性をもって生まれてきました。弟は、周りの子よりもゆっくりと大きくなる子で、家族や先生などの周りのみんなに助けてもらいながら、毎日少しずつ自分のペースで成長します。まだ一人でできない事が多い中でも、一生けん命事はむずかしいので、おたがい支え合う事で安心してくらせる、ちいきや社会が生まれる

がんばろうとするすがたがたくさん見られ、そんなすがたを見ると、やってあげたい、助けてあげたい、という気持ちになります。しかし、弟が周りから助けてもらうだけのそんざいではないと思っています。なぜなら、ぼくが悲しい時にはいっしょに悲しんでくれたり、つかれている時には弟が笑顔で接してくれたり、変顔をして笑わせてくれたりして、弟には心の面で助けてもらっている事がたくさんあるからです。なので、弟からは助けてもらうだけではないし、ぼくや家族、周りの人にいやしや笑顔、パワーをあたえてくれる、そんなそんざいだと思っています。人は一人ではかい決できない事でもだれかに相談すればちがう考えを教えてもらえる社会になったら、一人でなやむ人がへるもし、だれでもたより、たよられ、助け合ってほしいと願います。

一人ちがうからこそ、その人に合った役わりがあるはずで、だからこそ助け合える社会になってほしいと願います。

ったり、いっしょに考えてもらえたりして、

なやみが少しずつかい決いくからです。また、

人にやさしくする人が増えれば、笑顔も増え

ると思います。相手の気持ちを考えて行動す

る人が増えれば、けんかやいじめも少なくな

り、だれもが安心してくらせる社会になるは

ずです。そのような社会では、一人でなやみ

続ける事が少なくなり、心のしんどさやスト

レスもへっていくと思います。だからぼくは、

だれでもたより、たよられ、助け合える社会

は、みんなが笑顔で安心してくらせる明るい

社会につながると考えます。

最後に、これからは、困っている人がいた

ら自分から声をかけて助けられるようになり

たいです。そして、自分が困った時には、え

んりょせずに「助けてほしい」と言いたいで

す。今までに友だちや家族、周りの人たちに

助けてもらった時のうれしかった気持ちを大

事にして、だれかを助けるという気持ちも大

切にしていきたいです。小さな事でも自分に

、20 × 20

できる事を考えて行動し、周りの人と支え合って、助け合って、明るい社会を目指せると良いなと思います。

20 × 20